柑　橘

３月の農作業管理

周防大島統括本部

剪　定

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

◎密植園は間伐を優先して行ないましょう。

密植園では陽光があまり入らず防除もしづらくなりますので、そのような園地では優先的に縮伐・間伐を行いましょう。

・樹勢の弱っている樹（落葉、枝枯れ）

４月になって春芽が発芽した後に軽めの間引きせん定、枯れ枝の除去を行いましょう。

・樹勢のしっかりした樹（３月上旬に実施）

表年の樹　間引き主体に切り返しを入れてやや強めのせん定。太枝の間引き、樹高の単縮、内向枝の整理、側枝の短縮、下垂枝の切り上げ、予備枝の設定と夏秋梢の整理が主なポイント。(除葉率 20%)

裏年の樹　軽めのせん定。かぶさり枝や下垂枝を切除だけでも十分に効果がある。（除葉率 10%）

春肥の施用

● 春肥は開花、結実、果実肥大に必要な養分を供給します。基準量を適期に施しましょう。

各品種の柑橘１号・柑橘５号　　10a 当たり

品種	施肥時期	ソイルキーパー	柑橘１号	柑橘５号
極早生	３月下旬	６袋	４袋	５袋
早生温州		７袋	５袋	６袋

品種	ソイルキーパー	柑橘１号	柑橘５号
中生 普通	８袋	５袋	７袋
高糖系	９袋	６袋	８袋
中晩柑	９袋	６袋	８袋

植え付け手順

① 植え穴には完熟堆肥３０ｋｇ、ヨウリン３００～５００ｇ、サンライム１．２～２ｋｇを入れ土と混ぜ合わせましょう

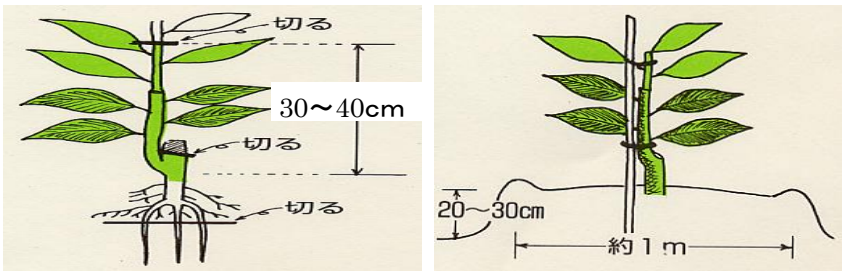
② ３月中旬～４月上旬に植え付けをおこないましょう

・根はよくひろげ、土になじませて植えましょう

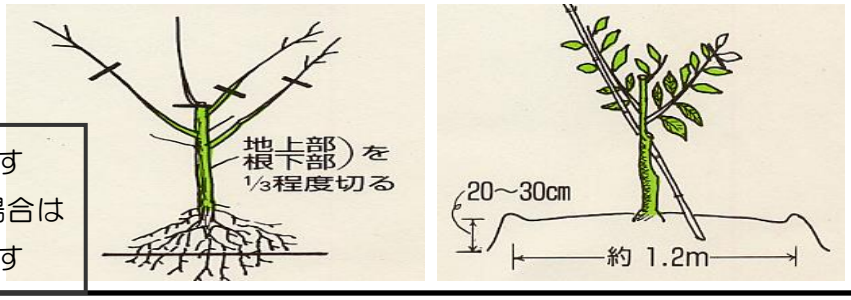
・根を活着させ生育を旺盛にする為に必ず支柱を立てましょう

③植え付け後は十分に潅水しましょう

１年生



２年生



夏芽で切り返す
夏芽が弱い場合は
春芽で切り返す

病害虫防除

時期	病害虫	防除薬剤
3月上旬	ミカンハダニ	アタックオイル　６０倍（樹勢の弱っている樹は控える）
3月中旬	かいよう病	IC ボルドー６６D　２５倍～４０倍（発芽前）

注１：アタックオイルの散布は冬期に散布していない園が対象です
注２：ＩＣボルドーの散布は、アタックオイルの散布後１４日程度は間隔をあけて散布して下さい。
注３：かいよう病多発園は、5月下旬にＩＣボルドー66D　80 倍＋アビオンＥ　1,000 倍を散布。

春草の除草

地温の上昇にともない春草の生育が活発になります。
草と樹の養分競合を防ぐため早めに春草の除草をおこないましょう

使用薬剤	適用雑草名	１０ａ当たりの基本使用量	
		薬量	希釈水量（通常）
ラウンドアップマックスロード（吸収移行型）	１年生雑草	200ml～500ml	50～100ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml	
サンフーロン液剤（吸収移行型）	１年生雑草	250ml～500ml	50～100ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml	
バスタ液剤・ザクザ液剤（接触型）	１年生雑草	300ml～500ml	100～150ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml	

※ラウンドアップマックスロード・サンフーロン液剤、バスタ液剤・ザクザ液剤には総使用回数には注意してください。

～除草剤の少量散布～

※ラウンドアップの少量散布（希釈水量５ℓ/10a）は専用のラウンドノズルＵＬＶ５を使用し、（25～50ℓ/10a）はラウンドノズルＬＶ２５を使用して散布。

使用薬剤	適用雑草名	薬量	希釈水量（少量）／10a の使用量
ラウンドアップマックスロード（吸収移行型）	１年生雑草	500ml	５ℓ／10a
	多年生雑草	200～500m l	25～50ℓ／10a

落葉果樹《ウメの管理》

作業	時期	内容
春肥の施用	３月上旬	柑橘有機配合１号（８・６・４）　２袋／１０ａ
灰色かび病	３月下旬	ストロビードライフロアブル2,０００倍
アブラムシ防除		ダントツ水溶剤４,０００倍

野　　菜《タマネギの管理》

作業	内容
べと病防除	春先の気温が高いと「べと病の発生」が危ぐされますので雨の前にジマンダイセン水和剤４００倍を散布しましょう。（ネオエステリン 5,000 倍を混合散布　展着剤です） ３月中旬以降はリドミルゴールドＭＺ1,000 倍を散布しましょう。
除草	雑草が多いと養分競合を起し、極端に肥大が悪くなりますので除草しましょう